

2019年12月3日

## 日本人口学会第 72 回大会のお知らせ

大会企画委員長 黒須里美

大会運営委員長 坂井博通

日本人口学会は、第 72 回大会を 2020 年 6 月 13 日（土）、6 月 14 日（日）の 2 日間、埼玉県立大学において開催いたします。会員の皆様はもちろん、人口にご関心のある研究者や学生の非会員の皆様にも積極的にご参加いただければ幸いです。

大会では、下記の通りシンポジウム、2 つの企画セッション、1 つのテーマセッションを設定しています。企画セッションにおける報告は組織者により編成されますが、テーマセッションでは報告が公募されますので、自由論題と同様に積極的にご応募ください。会員総会、懇親会は 6 月 13 日(土)です。また、大会前日の 6 月 12 日(金)には特別セッションが開催されます。

セッションタイプ	タイトル	組織者	使用言語	備考
シンポジウム	少子化時代における子どもの スナップショット～2018 年「子どもの 生活に関する調査」を中心に～	坂井博通 (埼玉県立大学)	Japanese	公開 (6/13)
企画セッション 1	100 周年を迎えた国勢調査 － 歴史と展望	川崎 茂 (日本大学)	Japanese	(6/13)
企画セッション 2	生物人口学理論の現況報告 －理論研究からデータ解析まで－	高田 壯則 (北海道大学)	Japanese	
テーマセッション	小地域データを用いた 人口分析とその応用	中川雅貴 (社人研)	Japanese	公募
特別セッション	第 7 回「地方行政のための GIS チュートリアルセミナー」	井上 孝 (青山学院大学)	Japanese	(6/12)
自由論題 セッション	--	--	Japanese/ English	公募

\* 内容や登録・報告に関する問い合わせは大会企画委員会 ML へ: [paj2020@paoj.org](mailto:paj2020@paoj.org)

\* 全体スケジュール:

	6/12(金)	6/13(土)	6/14(日)
午前		企画・テーマセッション① 自由論題 (3 発表×2 論題×2~3 教室)	企画・テーマセッション② 自由論題 (3 発表×2 論題×2~3 教室)
午後	特別セッション	総会・学会賞 シンポジウム 懇親会	企画・テーマセッション③ 自由論題 (3 発表×2 論題×2~3 教室)

<公開シンポジウム>

少子化時代における子どものスナップショット  
～2018年「子どもの生活に関する調査」を中心に～

*The present conditions of children in the era of fertility decline*

組織者： 坂井博通（埼玉県立大学）

座長： 萱場一則（埼玉県立大学）

討論者： 未定

日時： 2020年6月13日（土）午後

**趣旨：**

近年どのレベルの選挙においても少子化が争点にならないことはない。現代日本人には大きな危機感がある。ただ、決定的な対策はなく、対応に追われているのが現在だと言える。また、対策には多様な意見がひしめいていて、高齢者という船頭が多く、論が右往左往しているようにも思える。

そのため、まず必要なのは、論ではなく事実である。論より証拠であるだろう。

そこで本シンポジウムでは、埼玉県立大学／埼玉県が行った2万人を超えるこどもの生活に関する調査から、専門家に子どもの現状をまず報告してもらおう。続いて、調査も踏まえながら、子どもに対する施策を実施している埼玉県行政サイドから政策現場の子どもについての話を聞く。

そのあとはフロアーからの質問も交え、自由な質疑応答を行う。

**基調報告内容予定**

「埼玉県の子どもの実態」 埼玉県の子どもの実態分析プロジェクト

「埼玉県の少子化対策」 埼玉県関連部局

## <企画セッション①>

### 100周年を迎えた国勢調査 — 歴史と展望

#### *The Centennial of the Population Census of Japan – Its History and Prospects*

**組織者：** 川崎 茂（日本大学）

**座 長：** 川崎 茂（日本大学）

**討論者：** 小池 司朗（国立社会保障・人口問題研究所）

**日時：** 2020年6月13日（土）午前予定

#### **趣旨：**

我が国の国勢調査は、大正9年に第1回が行われ、2020年国勢調査で100周年を迎える。国勢調査は、人口統計の最も重要な基盤の役割を果たしていることは広く知られているが、今日では、調査実施環境の困難さが増大するなど、新たな課題も抱えている。他方、情報技術、統計技術の急速な進歩により、データの利用面では様々な新たな進展も見られる。この企画セッションでは、国勢調査の創設以来の歴史を振り返るとともに、国勢調査の世界の動向、国勢調査データの様々な利用動向を検討することを通じて、国勢調査の将来展望について考察する。

#### **報告予定者と仮題：**

川崎 茂（日本大学）

「人口学の発展における国勢調査の歴史的役割」

大崎（富田）敬子（常盤大学）

「世界における人口センサスの動向」

阿向 泰二郎（総務省統計局）

「2020年国勢調査の実施に向けて」

加藤 久和（明治大学）

「経済分析の観点からみた国勢調査の課題と展望」

井上 孝（青山学院大学）

「地域分析の観点からみた国勢調査の課題と展望」

## <企画セッション②>

### 生物人口学理論の現況報告—理論研究からデータ解析まで— *Report on theories of bio-demography – Theoretical studies and data analysis –*

**組織者：** 高田 壮則（北海道大学）・大泉 嶺（国立社会保障・人口問題研究所）

**座長：** 高田 壮則（北海道大学）

**趣旨：** 植物や動物の生物人口学は、およそ百年前の 1911 年に導出されたオイラー・ロトカ方程式以来、徐々に発展してきた。1930 年には、フィッシャーによって世代が重複する生物の適応度を計算する方程式が著書「自然選択の遺伝学的理論」の中で提案され、適応度を計算する方程式がオイラー・ロトカ方程式と同一のものであることがわかった。この時点で、生物の人口学理論が生物の進化を議論する進化生態学的道具として用いることができる可能性が示されていた。その一方で、生物進化的文脈とは別に、ロトカたちの研究に端を発した時間連続の年齢構造動態モデルも発展し、今では経路積分やラプラス変換という数学的手法を用いる解析方法が提案されている。さらに、レズリー行列モデルに始まる時間離散の年齢構造動態モデルも 1940 年代以降発展を遂げ、20 世紀末には個体群行列モデルという形で統一的に理解される枠組みが出来上がった。

本企画セッションでは、時間連続・時間離散の集団構造動態モデルそれぞれの理論・応用の最近の発展を報告するとともに、それらの成果がどのように生物の進化に応用可能であるかを、実証研究のデータレビュー、データベース解析に基づいて検討した結果を報告する。第一報告者の杉山は、時間連続の集団構造動態モデルの経路積分的アプローチを議論するとともに、そのアプローチが近年の実験データの解析に非常に有用であることを紹介する。第二報告者の大泉は時間離散モデルを日本の人口動態に応用した研究成果を、第三報告者の森田は進化・行動生態学の視点から見たヒトの出生率低下について報告する。最後に、時間離散の集団構造動態モデルの理論発展について解説し、一回繁殖型生物の進化の要因をデータベースを用いて解析した結果を高田が報告する。

#### **報告予定者と仮題：**

杉山 友規（東京大学・生産研）

「経路積分による個体群動態方程式の解析と系譜木上の状態推定」

大泉嶺（社人研）

「日本の人口減少の数学的構造～地域間移動と出生力差が示す人口動態への定量的影響～」  
森田一理（東京大学・理）

「進化から見たヒトの少子化と繁殖戦略：実証研究のレビューを中心に」

高田 壮則（北海道大学）

「一回繁殖型植物の Evolutionary demography —数理モデル解析とデータベース解析の融合—」

## <テーマセッション>

### 小地域データを用いた人口分析とその応用

#### *Demographic Analysis of Small Area Data and Its Applications*

**組織者：** 中川雅貴（国立社会保障・人口問題研究所）

**座長：** 井上孝（青山学院大学）

**討論者：** ※未定

#### **趣旨：**

近年、市区町村よりさらに詳細な地域を単位とする小地域データの利用環境が整備され、これらを活用した分析成果が国内の人口研究においても蓄積されつつある。日本人口学会では、2011年の第63回大会（於：京都大学）より、主に自治体職員を対象に「GISによる地域人口分析と地方行政への応用」をテーマとしたチュートリアル・セミナーが、井上孝会員を中心とする企画により継続的に実施されてきた。また、より具体的な関心や分析課題にもとづいて小地域データを活用した成果が、個別のセッションにおいて報告される機会も増えている。一方で、分析ツールとしての小地域データへの関心を共有する研究者が、それぞれの試みや成果を発表して情報を交換する機会は、これまであまりなかったように思われる。

そこで本セッションでは、人口研究が対象とする多岐にわたる分析テーマにおいて、とくに市区町村未満の単位の小地域データを用いた分析およびその応用に取り組む研究者が成果を発表し、その到達点と課題に関する理解を深めることを目的とする。発表内容については、小地域人口分析・将来推計、GISを活用した空間人口分析やネットワーク分析、小地域階層データを用いた近隣効果（neighbourhood effect）の推定等、基本的には小地域データを用いた人口分析とその応用に関するものであれば、とくに対象を限定しない。また本セッションの趣旨を踏まえて、試験的な分析の提案や方法論的検討を主題とする報告についても歓迎する。

#### **報告予定者と仮題：**

※テーマセッションのため未定（公募による）

## <特別セッション>

### 第7回「地方行政のためのGISチュートリアルセミナー」

#### *The 7<sup>th</sup> GIS Tutorial Seminar for Administrators*

**組織者：**井上 孝（青山学院大学）

**座長：** 同上

**討論者：**チュートリアルセミナー形式なので設けない

**報告予定者：**

川瀬正樹（広島修道大）

井上 希（社人研）

**日時：**2020年6月12日（金）（大会前日） 時間は開催校と協議のうえ決定

**場所：**開催校と協議のうえ決定

#### **趣旨：**

組織者は、これまで学会のご協力により第1～6回「地方行政のためのGISチュートリアルセミナー」を大会前日に開催してきた。この趣意書はその7回目を特別セッションとして提案するものである。第6回までのセミナーは、5～6名の登壇者が講義形式でGISの手法を説明する形であったが、参加者のアンケートによると実習形式（参加者が実際にGISを操作する方式）のセミナーを望む声が少なくなかった。一方、実習形式でのセミナーは大会開催校に対してパソコン実習室の貸し出しを要望する必要があるが、今大会は大会運営委員長である坂井会員のご厚意により、開催校である埼玉県立大学においてそのような実習室でのセミナー開催のめどが立った。そこで今回は実施内容を大幅に変更し、実習を取り入れたセミナーとすることとした。具体的には、GIS入門編（75分、川瀬会員担当）とGIS応用編（75分、井上希会員担当）の二部構成とし、それぞれ30分程度の講義と45分程度の実習を行う。全体としては、休憩と質疑応答の時間を加えて3時間程度とする予定である。なお、今回もこれまでと同様に近隣自治体宛に案内状を送付する予定であるが、今回は実習形式のセミナーであるため定員を設ける必要がある。そのため、案内状の送付先をどの範囲まで広げるかについてはもう少し検討したい。